

龍 横

発行所

発行者

第 73 号

大阪市史跡  
龍溪禅師墓所

靈龜山

九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号

TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

第廿五代住職

奥田 啓知 (智證)

当院は、阪神なんば線で、なんばから 7 分です。

# 『やられたら、やり返す。倍返しだ!』

「やられたら、やり返す。倍返しだ!」テレビドラマ『半沢直樹』で、俳優の堺雅人さんが演じる大手銀行員が次々と降りかかる困難に立ち向かう物語で、半沢の決めゼリフ「倍返しだ!」は、一躍流行語となりました。

日本では、昔から「やられたらやり返す」「報復・仇討ちは美德」とされてきました。赤穂浪士の吉良邸討ち入り、その他数多くの仇討ちは、『忠臣蔵』をはじめ数多く、芝居や映画になっています。

『旧約聖書』の「レビ記」には「目には目を、歯には歯を」と言う言葉がでてきます。現在でもイスラム国の法律には「キサース（報復の意味）」と呼んで「目には目を」を認めていますが、それは「同害報復」を認めたものであり、「拡大報復」は禁じています。しかも、なるべくその権利を行はせぬ相手を賠償金で赦してやれと勧めてもいます。私たちも、日常生活においてし

ばしば「やられたら、やり返したい」気持ちにかられることがあります。道を歩いていてぶつかられたからといつて、相手に殴る蹴るの乱暴を働く者も時にはいます。それこそ「倍返し」どころか「百倍返し」と、怒りには際限がないのです。

だから、イスラム教では怒りを認めただうえで、「同害報復」を認め、「拡大報復」を認めないので。仏教では、絶対に「報復」は賛美しません。

浄土宗の開祖の法然上人は、九歳の時、美作国の押領使（警察の長官）をしていた父親の漆間時国が夜討ちにあつて落命しました。時国は、死に臨んで上人に遺言しました。「敵を怨むな、わしが殺されたのは、前世の因縁であつて、おまえがわしの仇を討つならば、相手もこちらを仇とつけねらうだろう。それでは怨みの遠の真理である」とあります。法然の選んだ道こそ、真に怨みを無くす道だつたのです。

法句経には、「この世において、怨みに報いるに怨みをもつてすれば、ついに怨みの息むことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠の真理である」とあります。法然の選んだ道こそ、真に怨みを無くす道だつたのです。しかし、「倍返し」どころか「報復」さえしないのが、仏教の教えなのです。サンフランシスコの講和会議で、セイロンの首席全権が『法句経』のこの言葉を引用して、日本人の戦争責任に対する怒りの言葉をのべてくれました。どこかの國とはちがいますね。



## 波濤の夢

(龍溪禪師一代記) その十四

龍溪と隱元禪師(10)

遺偈とは、遺偈偈頌の略。高僧  
碩徳が入滅に際して、後人のため  
に遺す偈のことで、そこには大悟  
の境涯、または、心境思想等が、  
辞世の語として書かれたもの（禅  
学大辞典）である。龍溪の遺偈に  
ついて見てみると、

三十年前の恨み、未だ消せず  
幾回か屈を受く、爛藤条  
今晨怒氣 人に向つて嘆す  
却倒す胥江 八月の潮

とあるが、三十年とは、ただ漠然とした長い年月を言われたにすぎないが、弊師の弘忠和尚は、紫衣事件の契機となつた「大徳妙心諸法度」の「三十年修行」に引づかけ、「三十年」を持ち出したのである。『妙心寺史』の著者川上孤山師は、約三十年前の寛永十八年（一六四一）龍渓の師匠の伯蒲慧稜の十三回忌のことだとする。この法要には、妙心寺からは、龍渓の属する靈雲派以外の他の三派

(10) ( )

# 記) その十四

は一寺も出頭しなかつた。この年の春に幕府は紫衣禁庄政策を廃止したが、妙心寺内紛が公然化し、龍溪はこのことを恨みとして、鬱鬱の生活を送つたという。

いずれにしても、龍溪が末期に際して、今なお脳裏に浮かぶのは『紫衣事件』で、当時の先輩たちの狼狽を目の当たりにし、また度重なる批難や誤解を受け（幾回か届を受く）ても、臨済正法、ひいては仏法興隆の為ひたすら生きぬき、ぼろぼろになつた龍溪自身（爛藤の杖）である。

条とは杖（印可証明）のことと、信念をもつてたじることなく生きぬき、隱元禪師より臨済正宗の正法をついだ誇りも垣間見れる。そうした長年の恨み（懐旧の情念）を起承句で述べている。

転句の「怒氣」について、弊師は自著「龍燈」のなかで、「怒氣」という一語は「届」に対しての「恨」と同じで、不惜身命、求道の一途に燃え続けた禪師としては、まさに憂國の志士とでも申すべき激凍たる護法の道念が「怒氣」

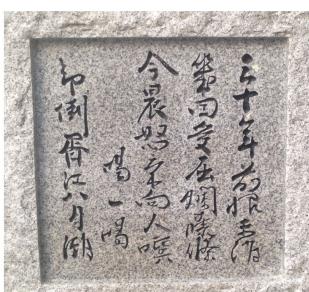
最後の受屈となるものである。そこで喝一喝したという。

伍胥江の胥は春秋時代の楚の人・伍子胥を指す。子胥が濤神となつたという故事から濤の逆巻く川をいうと述べている。

平成十年十月に、妙心寺塔頭「靈雲院」での拙院修養会で、禅学者の京都大学名誉教授柳田聖山先生は、史記卷六十六話の伍子胥列伝第六を紹介された。

骨肉争う凄まじい怨念を、当代随一の知識人で中国文学への造詣が深い龍溪が、自己の恨み（憶い）の深さを伍子胥になぞらえ、錢塘江の海嘯といつて、毎年旧暦の八月十八日前後に、海水の大逆流（大津波）が押し寄せるが当時はその激流に船漕ぎだすことが、男子として最高の榮誉とされた。

今までに押し寄せようとする大津波を錢塘胥の海嘯ととらえ、この襲いかかる怒氣、龍溪にとつての最後の受屈というものを、おしゃるわいとする気持ちが読み取



龍溪禪師の遺偈

従つて、龍溪の遺偈は意訳を試みると、紫衣事件以降、長い年月の恨み（臨済正法興隆、ひいては仏法興隆の憶い）は消えていない。幾度も、屈（批難、誤解）をうけてきた私だが今憶いの丈（怒り）の一喝を児孫に向かつて吐きだす。喝一喝（カーン）。逆巻く胥江八月の潮を押し返し、禅の本場中国へ渡つてやる。と自分なりに解釈できる。

龍溪の水定示寂は、妙心寺では『関山濤』と称して、妙心寺開山の関山慧元の冥罰だと喧伝したといふ。

しかし龍溪の最後は、天災とはいふのがれることが不可能でなかつたにもかかわらず、自ら死を選ぶ劇的な最後であった。それは、天命の怒りのもと、過去の恨みは消え失せ、胥江八月の潮を押し倒し、生死を超えて正に涅槃寂靜・涅槃妙心の境涯にあつたものといえ

平成十年十月に、妙心寺塔頭「靈雲院」での拙院修養会で、禅学者の京都大学名誉教授柳田聖山先生は、史記卷六十六話の伍子胥列伝第六を紹介された。

骨肉争う凄まじい怨念を、当代随一の知識人で中国文学への造詣が深い龍溪が、自己の恨み（憶い）の深さを伍子胥になぞらえ、錢塘江の海嘯といつて、毎年旧暦の八月十八日前後二、海水の下逆流

の深さを伍子胥になぞらえ、錢塘江の海嘯といつて、毎年旧暦の八月十八日前後に、海水の大逆流（大津波）が押し寄せるが当時はその激流に船漕ぎだすことが、男子として最高の榮誉とされた。

今まさに押し寄せようとする太津波を錢塘胥の海嘯ととらえ、この襲いかかる怒氣、龍溪にとつての最後の受屈というものを、おしゃ返してその激流にのつて、臨濟正法の本場、隱元の故郷中國に渡つてやるわいとする気持ちが読み取

だるまさん、集めてます。ご不要なだるまさん（置物など）お寺へ譲つてください。

墓地維持費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

## 坐禅と除夜の鐘

恒例となりました。  
『坐禅と除夜の鐘』を行います。  
12月31日(大晦日)  
坐禅 午後11時  
除夜の鐘 午後11時40分



## 第十九回 修養会報告



開催日  
十一月二日(土)  
天気  
晴れのち曇り  
参加者  
三十七名

大阪市内の黄檗宗寺院瑞龍寺を拝訪し、中村秀晴老師の講話を拝聴。徒歩にて移動し、クルーズで水都大阪をたつと満喫しました。今回は、アーティスト貸切話題と違った電車での短時間のツアーリングを行いました。

来年以降は未定ですが、今年のように檀信徒の皆様と楽しく過ごしたいと考えています。ひどい電車での待ち時間が長いです。

(副住職)

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで直通電車が走っています!

## 行事報告

水灯会(お施餓鬼法要)

参加者  
40名

地蔵盆子ども会

参加者  
70名

大龜地蔵尊 地蔵盆回向

参加者  
10名

写経会

参加者  
6名

お寺deヨガ

参加者  
8名

10/26 9/28

8/23 8/22

8/19

## 行事予定

12/31 坐禅と除夜の鐘

2/11 写経と精進料理の夕べ

(主催・大阪市仏教青年会)  
四天王寺客殿を利用しての写  
経会です。参加費三千円。

3/23 山門会 (春のお彼岸法要)

4月 花まつりヨガ(予定)  
詳細は、次号にて。

4/8 花まつり甘茶接待(西区仏教会)  
九条駅前での花まつり甘茶接待。

## 平成26年 年忌早見表

## 年忌早見表

年忌	寂年	年忌	寂年
1周忌	平成25年	17回忌	平成10年
3回忌	平成24年	25回忌	平成2年
7回忌	平成20年	33回忌	昭和57年
13回忌	平成14年	50回忌	昭和40年

## ☆1000年都市、京都おもてなし音絵巻☆

～東日本復興チャリティー～ クラシックコンサート

2013年12月8日(日) 京都コンサートホールにて行われるクラシックコンサートに黄檗宗僧侶が声明を披露することになりました。滅多がない機会です。ご興味ある方はチケットをお求めください。

日 時：2013年12月8日(日) 15:00開場 16:00開演

会 場：京都コンサートホール 大ホール

出 演 者：秋川雅史 河村隆一 ボブ佐久間など。

チケット料金：前売／SS席￥8,000 S席￥7,000 A席￥6,000

facebook

(フェイスブック)はじめました。ご覧ください。

墓地維持費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

景 壺

秋彼岸明けの翌朝、日課の3匹の飼い犬の散歩に出たら、お寺の駐車場のフェンスの前に、骨壺が置かれていました。けつたいな落とし物？に、わざと電車の網棚に骨壺を忘れる人がいると何かで聞いたような記憶が脳裏に浮かびました。「散歩の途中にある交番所で聞いたら」との家内の意見で、そのままにして散歩に出ました。

お巡りさんは、遺失物として届けてくれれば、処理しますとのことで、遺失物ならぬ遺失仏を、本堂で供養してから届けようと、骨壺の中を検めると、遺骨はなく、百円硬貨が一枚入っていました。「遺骨をどこかで散骨し骨壺の処分に困り、お寺の門前に捨てたのでは？」と家内は言いました。近頃流行りの『散骨業者』なら、骨壺は処分してくれるはず、自分で勝手に捨てたのかな…。いろいろと憶測をめぐらせました。

フィリピンの戦没者慰霊ツアーで、見聞しましたが、戦地の日本軍の慰霊碑は骨壺の形にしています。日本人ほど遺骨に執着する国民はないとか、ハワイの真珠湾に沈没した戦艦アリゾナは数多くの戦死者を乗せたまま、戦艦自体が慰霊碑となっています。

日本人のお墓に対する感覚も随分変わってきました。少子化に伴う所帯数の激減の中、お墓を護ることの難しさから、永代供養合祀墓や樹木の根元に遺骨を埋葬し墓碑は建てない樹木葬などが流行っています。その先駆けとなったのが「散骨」です。

「散骨」といっても、遺骨を碎いて「違灰」にして撒かねばなりませんが、「供養」のひとつもしてこそ「功德」になりますが、ただ「散骨」しただけでは、遺骨を捨てたと同じで、故人も浮かばれないと思います。

「私のお墓の前で泣かないで下さ  
い～」の『千の風』の歌がこんな情  
けない風潮を助長しているのでは……。

危惧しているのは、お寺さんだけなのでしょうか。



## お知らせ

1旗 金2千円

『南無觀世音菩薩のぼり』を入れ替えます。一年間境内に掲げます。昨年同様、お施主さんを募集いたします。お書きと旗タグを墨書きします。

ご希望の方は、専務所までお声をかけてください。

佐伯淑子様より、ご先祖供養にご喜捨を頂きました。厚く御礼申し上げます。放生池の浄化装置の改修新設工事費用の一部に使わせて頂きました。新しく鯉を放しましたので、墓参や参詣の際にご覧ください。

# 編集後記

▼今春の『だるま堂』落慶記念に製作した日本手拭いは、とても好評でした。「ころがせ

▼なかには額縁にして飾つておられるお家もありました。年齢を重ねても、なかなか角がとれませんね。

▼来年は午年です。小生、馬齢を重ねて新年は、齡六十三になります。

▼『馬に乗つてみよ、人には添うてみよ』といふ諺があります。馬には実際に乗つてみな

ければ、その良し悪しが判らない。人間も実際に付き合ってみなければ本当の事が判らない。新年は、虚心坦懐に色々なご縁を頂ければと祈念しています。

(住職記す)

墓地維持費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。